



【お詫びと訂正】
1月1日号6面・市民のひろば内「第1回健チャラin芦屋」におきまして、問い合わせ先の郵便番号に誤りがありました。正しくは下記のとおりです。お詫びして訂正いたします。

〒659-8501 住所不要・障害福祉課内

「阪神南地域夢会議」参加者募集

問い合わせ 阪神南県民センター県民運動課
☎06-6481-4542/☎06-6482-0579

✉hanshinm\_kem@pref.hyogo.lg.jp/HPhttp://minami-vision.net

ビジョン委員とともに阪神南地域の現在の状況と未来の夢を語り合い『2030年の兵庫』を展望しましょう。

- 日時 2月25日(土)午後1時~5時15分(受付0時30分~)
場所 尼崎商工会議所701会議室(阪神「尼崎駅」から徒歩5分)
内容 4つのテーマをもとにグループにわかれて意見交換・発表・専門委員等の助言
【テーマ】
①ひとと暮らしー文化活動、健康長寿社会、多文化共生
②まちや地域ーユニバーサルな生活空間、コミュニティ、交流
③安全安心ー自然との共生社会、生物多様性、防災・減災
④産業としごとー地場産業、観光振興、ソーシャルビジネス
定員 60人
申し込み 2月20日(月)までに上記へ

消防活動用資機材を更新配備しました

問い合わせ 消防本部警防課 ☎32-2345

経過年数20年以上の小型動力ポンプ(C-1級)2台を老朽化のため更新し、新規で消防用ホースを10本(65mmホース5本、50mmホース5本)を増強し配備しました。

この小型動力ポンプ(C-1級)は、従来のポンプと同等の放水性能を有しながら小型軽量化されており、消防活動体制の迅速化を図りました。

※資機材の購入には「平成28年度石油貯蔵施設立地対策等交付金」を充当しました。



芦屋病院・睡眠時無呼吸症候群かどうか調べてみませんか？

問い合わせ 芦屋病院 ☎31・2156

今までにいびきを指摘されたり、昼間に眠気を感じたことはありませんか？

最近、睡眠時無呼吸症候群という病気のかたが多いことがわかってきました。男性の約4分の1、女性の1割が該当し、男性の3%、女性の1%に症状があるとされています。

この病気が、働き盛りの太った男性、大相撲の力士のような体型の人に多いといわれていますが、一方で小柄で小顎な年配の女性にも増えています。

症状としては、睡眠中に呼吸が1晩に30回以上、1時間あたり5回以上止まり、夜間のいびきや昼間の眠気などを引き起こします。しかし最近では、症状がなくても検査で異常を認める、無症状の睡眠時無呼吸症候群のかたがいることがわかりました。

そのことが原因で心筋梗塞や脳梗塞などの病気を引き起こしたり、自覚はなくても、自動車の運転中に眠くなり事故を起こすなどの危険性が高くなります。

睡眠時無呼吸症候群の診断には、携帯型簡易モニターを使用します。このモニターは、小型で軽量であるため、自宅に持ち帰り簡単に検査できます。従来は鼻の気流と指の酸素量を測っていましたが、最近では指のみで測れる新しい機器も使用するようになり、鼻センサーをつけるわずらわしさがなくなりました。

そして、簡易モニターで精密検査が必要だと判断された場合は、一泊入院下で睡眠ポリソムノグラフィー検査を行います。脳波や心電

図、体位、胸部の動きなどを総合的に解析し、睡眠時無呼吸の重症度と原因を調べます。

治療は、CPAP(シーパップ)・持続陽圧呼吸療法という治療法を用います。睡眠中にマスクを密着させて無呼吸を防ぎます。治療をされた患者さんの中には、開始したその日から劇的に症状が改善する方もいます。

また、今年から人間ドックでも簡易モニターによる睡眠時無呼吸症候群の検査を始める予定となっています。睡眠時無呼吸症候群の検査をご希望のかたはいつでも当院までお問い合わせください。

循環器内科部長 北川泰生

昭和9年(1934)~1984)

富田碎花と谷崎潤一郎をみつめた「擬春日燈籠」



富田碎花旧居(宮川町)は、大正昭和の詩壇に大きな業績を残した詩人・富田碎花が、昭和14(1939)年から、94歳で逝去した昭和59(1984)年まで暮らした家です。さらに、碎花が住まう以前には、昭和9(1934)~1936(1936)年まで、文豪・谷崎潤一郎が3番目の妻となる松子と挙式を挙げ、隠れ住んだ場所でもあります。

富田碎花旧居の石燈籠が「擬春日燈籠」と呼ばれる所以は、富田碎花が詠んだ「細雪源氏の君のかかりをわが庭に遺す擬春日燈籠」の歌にあります。わざわざ「擬」と付けられたのは、本来春日燈籠に浮彫されていないからでしょうか。富田碎花旧居の擬春日燈籠には、十二支の動物たちが彫刻されています。

この石燈籠は、長い竿と六角形の火袋(火を灯す部分)、蕨のような形の装飾(蕨手)を持つ笠、そして最上部にタマネギのような形の宝珠を持つことが特徴の「春日燈籠」と呼ばれるタイプのもので、その名称は奈良の春日大社に良く似た形の燈籠があり、それが見本になったことに由来すると言われていますが、確かなことはわかっていません。

谷崎潤一郎は、現・展示棟の2階を書斎とし、『源氏物語』の現代語訳に取り組み、また『猫と庄造と二人のをんな』を執筆しました。そして、富田碎花はこの家で数多くの詩や歌を作りました。

詩人・富田碎花と文豪・谷崎潤一郎、庭の隅から2人の文学作品をずっとみつめてきた「擬春日燈籠」をぜひ、富田碎花旧居でご覧ください。

芦屋タイムトラベル 問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115